



新潟の水辺だより

Vol.51

●編集発行・新潟の水辺を考える会●発行日・2000年7月7日 Vol.51

TOPICS

水辺の会に 楽しさ+面白さ+汗+責任を!!

～ NPO アンケート結果報告～

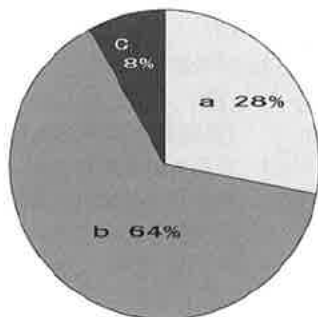
全会員260名に発送したアンケートに対して65通の回答がありました。(回収率は25%) 御協力有り難うございました。NPO法について良く知っている人は約3割で、何となくわかるが6割以上とまだ具体的には理解されていないようです。

水辺の会を法人化すべきかという問いに対して法人化すべきが6割、すべきでないが1割で、NPO法の理解と関連してか、よく分からないが3割ありました。会への関わりについては関わりたい方は7割、情報が欲しい方は2割という結果でした。

意見・提案としては40名の方から頂き、賛成の中では今までの活動を考えると当然法人化すべきだし、更に活動が活発になるという意見や組織や人材に苦勞し、仕事量が増えるのではという心配も指摘されました。今のままでよいという意見の中では、会の具体的方向性をはっきりすべき、法人化のメリット・デメリットを会員に説明すべきという意見がありました。

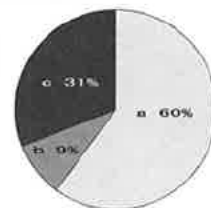
問1. NPO法について

	(人)
a. 良く知っている	18
b. 何となくわかる	42
c. よく分からない	5
計	65



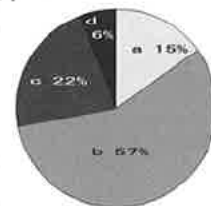
問2 水辺の会は法人化すべきだと思いますか

	(人)
a. 法人化すべき	39
b.今のままでよい	6
c. よくわからない	20
計	65



問3 あなたの水辺の会への関わりは?

	(人)
a.会の活動に積極的に関わりたい	10
b.会の活動に出来るだけ関わりたい	37
c.情報がほしい	14
d.その他	4
計	65



アンケート集計・とりまとめ 森本 利

水辺の会のNPO法人化に対し疑問や理解しにくいという指摘がありました。1987年の会の発足当時、目標や会則を置かず会員個々人の想いに任せたサロンの集まりの「水辺を考える会」をそのまま抱えながら、1996年には新潟市の通船川や佐潟をテーマに水辺の環境改善に「汗をかくボランティアの会」に発展しました。未参加の会員には理解できないこともあるかも知れませんが、水辺の楽しい空間を生み出すためにも、水辺の改善に対して積極的に「責任をとれる会」への進化が不可欠になってきました。今までの取組みを包み込む具体的な目標(使命)や方針、事業、スタッフ、資金、役割分担、会則などを今後の提案としますが、いずれにせよ現実の水辺環境を守り、育て、創り出すには団体として責任あるNPO法人の形にする時期にきたと思います。皆様のご理解とご参画を期待いたします。

世話人 相楽 治



通船川のコーナー

通船川マスタープラン 策定にむけて

■平成9年の河川法の改正によって河川整備基本方針及び河川整備計画の策定が定められた。

■改正から二年経過し、策定スケジュール等が明らかになってきた。(特に、事業実施中の河川で従来の工事実施基本計画、改良工事全体計画未策定河川は最優先で策定が必要)

■県内一級河川5水系を12ブロックに区分し、そのブロックごとに策定する。

■今年度から通船川・栗の木川下流を含む「信濃川下流(平野部)ブロック」の河川整備計画の策定をおこなうことから、市民会議での論議を急ぐ必要がある。(他の水系・河川では、事業・計画の地元説明会の開催やアンケート調査等を実施)



河口ワークショップを受けて作られたイメージ図

現在、通船川・栗ノ木川下流再生市民会議(略称・つうくり市民会議)事務局(新潟県土木事務所)は、第6回つうくり市民会議に提案する「川づくり案」を地区別検討会によって「提示(ものさし?)」づくりが地区別(江東地区・木戸地区・中地区・大形地区)意見交換会という形で行われています。

市民会議が求める今年度の目標

- 1・「川づくり案」(2000年案)の策定
- 2・住民参加による地区別の計画案の策定
- 3・地域住民・関係団体・企業等相互の議論の活発化
- 4・実現化に向けた体制づくり

など4項目があげられています。

ここに山ノ下閘門周辺激特事業完成予想図の縮小は付けられないでしょうか?

今年2月27日と3月26日、河川審議会管理部会の委員が市民と行政のパートナーシップの川づくりの事例収集のために、通船川の現地視察と通船川・栗ノ木川下流再生市民会議関係者との意見交換に訪れました。市民と行政のパートナーシップの川づくりの事例収集は全国で6河川がモデルケースに選ばれ、通船川もその一つです。

世話人 星島 卓美

河川審議会視察報告

今年2月27日と3月26日、河川審議会管理部会の委員が市民と行政のパートナーシップの川づくりの事例収集のために、通船川の現地視察と通船川・栗ノ木川下流再生市民会議関係者との意見交換に訪れました。市民と行政のパートナーシップの川づくりの事例収集は全国で6河川がモデルケースに選ばれ、通船川もその一つです。

寒い時の現地視察でしたが、通船川の実情を理解してもらい、意見交換会では激甚災害特別緊急事業の良し悪しや、行政と市民が話し合うための時間の生み出し方、都市計画と結びつけた河川計画の重要性など、本質的な議論がなされました。これが、今後の川づくりに直接役立つかどうかは分かりませんが、少なくとも通船川の動きが全国的に注目されていることが分かりました。

現地視察と意見交換の参加者は以下のとおりです(敬称略、役職等は開催時のもの)。

河川審議会管理部会委員：石川幹子、伊藤和明、碓井光明、小澤普照、近藤 徹、残間里江子
河川審議会管理部会専門委員：重川婦志依、横山隆一

建設省関係者：竹村河川局長、渡辺河川計画課長、清治治水課長、布村調整官、足立専門官、渋谷課長補佐、本田河川企画係長、小林局長秘書、リバーフロント整備センター関係者2名

市民団体関係者：大熊 孝(市民会議会長)、本間康司(世話人会代表)、三谷 清(中地区連合会会長)、村山直晴(中山自治連合会会長)、和田庄吾(大形連合協議会代表)、佐野誠一(木戸地域を水から守る会)、星島卓美(通船川ルネッサンス21)、相楽 治(新潟の水辺を考える会)、高橋正良(通船川野鳥の会)、水澤 紘(木材倉庫専務理事)、藤井大三郎(亀田郷土地改良区企画室長)

新潟県・新潟市関係者：米野紀男(県河川課長)、阿部良満(県河川課技術補佐)、常山 哲(県河川課企画調査係長)、松川 真(県河川課企画調査主任)、大塚正恒(県新潟土木事務所長)、平澤修爾(県新潟土木事務所次長)、丸山澄夫(県新潟土木事務所計画調整課長)、鈴木久志(県新潟土木事務所計画調整課計画専門員)、丸山昭男(県新潟土木事務所計画調整課計画専門員)、浅井三郎(市土木部長)、解良 勇(市土木管理課長)、西潟清二(市土木管理課課長補佐)

とりまとめ 杉山 泰彦

通船川のコーナー



都市の河川を新潟から全国発信

今年2月25日（金）から27日（日）の3日間、東京原宿の新潟館ネスパスで、『「川」とかわすあしたの約束Part2—大河をつなぐ、忘れられし通船川—』が、当会の企画で行われ、1,000人以上の人が訪れました。



●55枚の手作りパネル

事前の準備では2月12日から13日にかけて、通船川やそれに関わる活動を紹介したパネルを55枚作りました。来場者の人気投票では、会員長谷川久彦さんの描いた通船川三十景、通船川夢マップ、昔通船川を通っていた外輪船、カヌー下りの紹介は好評でした。

この他にも日本海を佐渡島まで渡った丸木船や通船川で採れた魚の標本も来場者の関心を集めていました。



展示コーナーの様子（撮影：高橋 正良）



左：星島さん、右：平松さん（撮影：高橋 正良）

●「くらしの中の川」をめざして

広松 伝さん（九州水の会 代表）、星島卓美さん（通船川ルネッサンス21代表）、大熊 孝会長による鼎談では、「柳川堀割物語」の上映会から発足した「新潟の水辺を考える会」が「水郷水都全国会議」を通じて、広松さん達とのすばらしい水仲間と出会い、それに触発されて始まった通船川の活動が、全国に発信され、水仲間に広まりつつあることが評価されました。



●川端会議「忘れられし川」

森 清和さん（よこはまかわを考える会）、森山奈美さん（(株)御祓川：石川県七尾市）、大澤浩一さん（鶴見川流域ネットワーク）、横山 通さん（通船川に木を植える男）、コーディネーター 相楽 治世話人によるトークリレーでは、「忘れられし川を復活させる活動は全国各々違うが、まちづくりの視点から、市民が各々智恵を出し合い、同じ目標を持った者同士が、流域だけではなく、全国的なネットワークをつくり、活動してゆこう」と議論が行われました。

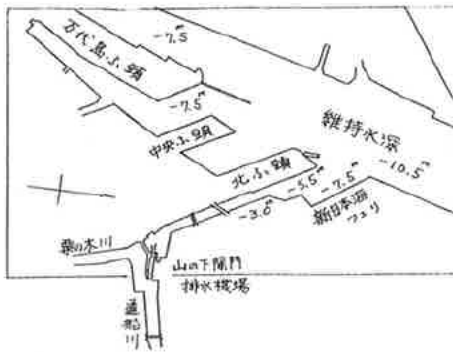
まとめ 森本 利、杉山泰彦



通船川のコーナー

山ノ下閘門排水機場の位置

「水辺だより」先号(1月29日)に、「新潟日報」(平成11.11.10)の「私の視点」 「将来を見据えた通船川論議必要」の大久保さんに反論した、石月さんの「大久保正史氏の投書を読んで」がありました。大久保さんは「閘門を山ノ下橋の下流に設置する」ことを提案したものでした。私は、いままであまり議論されてこなかった視点から、問題を提起したいと思います。



○河川と港湾の行政の狭間に現在の山ノ下閘門排水機場は、地盤沈下によるゼロメートル地帯のため、通船川・栗ノ木川の水面を陸域より低い低水路方式とし、両川の合流点を締め切ったものです。このとき、なぜ通船川の最下流、港の合流点につくらなかったのでしょうか。

下流の川幅は、現位置の半分くらいしかなく、施設全体が小さくなり、工費も安く、保守も容易になるばかりか、山ノ下橋の水面までの高さ・治水に必要な遊水水面をより多く確保できるなど、下流に築造するのが合理的であり、なら弊害は考えられません。

現在、山ノ下橋の下流に北海道航路に直結する、平成5年竣工の「末広橋」があり、この両橋は山の下と沼垂をつなぐ大事な橋となっています。私達が舟運を考えたとき、障害になったのが山ノ下橋の水面からのクリアランスの低さでしたし、筏や舟運のほとんどは、この橋の下を通るのですから、解決する必要は誰もが認めるところとなっています。

閘門排水機場が造られたのが、新潟地震の災

害復旧だったとしても、下流にこの施設を造る合理性は変わりありません。それをしなかった理由は、山の下橋下流域は港湾で、治水の対象とならなかったから、ではなかったのではないのでしょうか。川は建設省、港は運輸省の所管ですから、両省で治水と港湾機能の調整をはかることが必要です。しかし、災害復旧は短期間ですから、そのための十分な時間的余裕がなかったと推定されます。

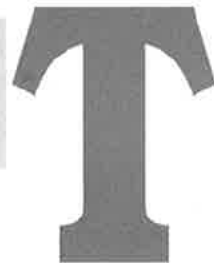
○閘門下流の危険、欠陥水域をどうするのか現在、閘門の下流域の係船岸壁は、冬季になると船舶は避難し、役にたっていません。冬季以外にも、台風などのときは事前に避難しています。水面が擾乱し小型船舶に危害を及ぼすからです。(西港全体がそうですが、通船川は特にひどいのです)

通船川の最下流の川幅は、カーフェリーの岸壁で広がっておりますが、本流の幅は狭くなり、水深はだんだん浅くなっていき、最奥は水門、閘門で完全に遮蔽しています。さらに全体は、垂直な矢板とコンクリートで固めた構造になっています。西港を見て分かるように、日本海の波浪は、港口から進入し通船川にも入ってきます。

通船川では、この構造、形態が、進入した波浪の水面変動を増幅させ、危険な水面擾乱を起こしていると考えられるのです。今次の閘門増強工事がさらにこの危険を増幅するのでは、とも懸念されます。

もし、閘門排水機場が下流に築造されていたらこんな問題も起きなかったし、橋が低いという問題も生じません。現実問題として、今次激時事業ではできないでしょう。しかし、閘門排水機場の設置位置は、治水、利水上は重要な課題です。いま、市民は通船川の改修に、行政と率直に意見交換のできる機会ができました。「水辺だより」で問題も提起されました。より良い計画を議論するために、山ノ下橋下流の閘門排水機場設置位置の問題は、十分価値あることだと思います。

通船川ルネッサンス21 丸山 芳



2000年花いかだ 写真コンテスト



にいがた花と水ネットワーク賞 佐藤 勝彦さん

4月23日に信濃川のやすらぎ堤で花筏作りが行われました。昨年に続き2回目の参加でしたが、今年は教育学部の学生の参加もあり、若い人や年輩の方々との交流がありました。このイベントでは普通の学生生活では味わうことのできない貴重な体験を経験したと思います。

昨年はカメラを持参しなかったため、みんなの楽しそうな笑顔をまったく残すことができず、とても残念でしたので、今年は、参加者の楽しそうな雰囲気や笑顔を是非記念に残しておきたい思い、構図、背景などはまったく無視してシャッターを押し続けました。写真コンテストのことは全然知らず、また知っていたとしても、コンテストに応募しようなどと大それたことは考えていなかったのですが、他の人の写真を是非見てみたいと思い、審査会に参加しました。参加していると、自分の写真も急に他の人にも見てもらいたいと思うようになり審査会に応募してしまいました。なぜかプロのような人たちに混ざって入選してしまいました。入選したことは大変うれしかったのですが、しかし、まだまだ未熟だということも痛感させられました。是非来年も花筏に参加して、もっとうまく撮影し入選できるようにしたいと思います。

菅野 隆之

「川」とかわすあしたの約束 Part-3のお知らせ

7月7日(金)から9日の3日間、東京原宿の新潟館ネスパスにて、「川」とかわすあしたの約束Part-3～阿賀野川連携に向けて～が開催されます。今回は、福島県と新潟県の県境を越えて、阿賀野川をテーマにした地域連携の可能性を探り、これからの活動のきっかけづくりをねらいとしています。

御参加お待ちしております。

展示

阿賀野川や阿賀川を紹介するパネル、写真コンテスト作品、川舟の実物や模型、土石流模型実験の実演、ビデオ上映など

トークライブ

7月8日(土) 14:00～15:30

対談「流域哲学を組み替える」

内山 節(哲学者、掛川哲学塾三人委員会)

大熊 孝(新潟の水辺を考える会会長)

7月9日(日) 14:00～15:30

トークリレー「阿賀野川流域に生きる」

菅井 光信(熱塩加納村 有機農業者)

中川 伸一(船大工)

杉山 泰彦(蒲原塾リパースタッフ)

星島 卓美(通船川ルネッサンス21代表)

主催:財団法人ニューにいがた振興機構

企画:新潟の水辺を考える会

協力:建設省阿賀野川工事事務所、建設省阿賀川工事事務所、福島・新潟県境圏域振興会議(西会津町、山都町、熱塩加納村、高郷村、柳津町、三島町、津川町、鹿瀬町、三川村、上川村)



菅野さんの入選作品

地球環境保全功労者賞受賞

環境庁より「平成12年度地域環境保全功労者賞」を受賞しました。賞にはあまり縁のない私たちは全国的な賞は初めてかな。

これは「地域環境保全の推進のため、多年にわたり、顕著な功績のあった団体」として県・市から推薦され、東京で環境庁長官より表彰を受けるものです。



賞の経緯は昭和47年6月、ストックホルムにおいて国連人間環境会議が開催され、国連が6月5日を「世界環境デー」に設定しました。日本ではそれを受けて、昭和48年から6月5日を初日とする1週間を「環境週間」とし、平成3年からは6月の1ヶ月間を「環境月間」としており、その一環として昭和56年に創設され、行われているものです。

去る、6月5日、大熊会長の代理として出席してきました。

午前9時、皇居前の東京都丸の内1丁目1番地に着き、その二重橋の真正面に古風な8階建て東京商工ビルが受賞式の会場です。

会場から眼下に見渡せる皇居外苑は、環境庁の管理公園になっており、緑の木々がほど良く手を加えられており、都内のオアシスになっています。環境庁の演出のような感じがしました。

全国から集まった、小学生から81歳の高齢者まで72の個人・団体が約二時間かけて一人・一団体づつ長官（大臣）から表彰状を頂きました。

地域環境保全功労者賞は28件（19名、9団体）が表彰され、他に環境保全功労者表賞（9件）、地域環境美化功績者表賞（39件）（新潟県からは与板町立与板小学校）がありました。

最後に長官を囲み、胸に赤いリボンを付けた受賞者の顔は、前をしっかりと見つめ誇らしそうに見え、自分も、その中に含まれているのを実感しました。

記念写真を撮り、外苑の森が一段と映える懇親会場を後にしたのは午後1時半ころでした。

世話人 星島 卓美

地域活性化大賞ベストオブベスト

去る5月27日、新潟県異業種交流センターで行われた「地域活性化大賞BEST of BEST賞」の第1次審査会に相楽世話人・星島世話人と同行いたしました。

水辺の会の13年間のドキュメントやパートナーシップ型の水辺のまちづくり運動や前回いただいた賞金100万円を基金として「こども水辺賞」の創設したことをアピールし、また当日テレビが来るということで子どもたちが描いた「通船川夢マップ」を持参してウケを狙いました。

実践例として、星島世話人と私とのコンビで得意なものといえば、通船川の「環境講座」のこと。行政や町内会、企業、学校、農協、漁業、諸団体を巻き込みながら展開していったことや、公民館がネットワークを組んだ事例として全国的に紹介されていることを強調しました。また、産・官・学・民・農によるパートナーシップの「つくり市民会議」が立ち上がり、それも河川審議会の全国事例になっていることも発表しました。

来年の本番は、NPOの設立などをアピールしたいですね。

大崎 信子

オランダツアー

昨年の川の日ワークショップ全国大会で星島・森本両世話人が頑張り敗者復活戦から何とグランプリをとったのは記憶に新しい出来事です。そのグランプリ副賞オランダ招待旅行1名分をみんなで分けて？オランダとイギリスの運河交通を遊覧体験して来ようというツアー。現在まで17名前後で新潟グループツアーを組む予定。同じグランプリ受賞の九州組は24日-31日の日蘭子ども交流ツアーに合流予定。まだ調整中ですが26日新潟新幹線朝6:21発で移動、成田発12時アムステルダム着16時、27日運河の街歩きと運河水上交通視察／イギリスに移動泊、28日チームズ川船下りチームズ川辺泊、29日オランダに移動、野外展示風車小屋見学や美術館など観光アムステルダム泊、30日国立博物館見学、船舶博物館見学アムステルダム市街地散策、夜アムステルダム発31日成田着-新幹線新潟夜着という4泊6日の短い夏の旅です。通船川にナローボート（小さな船）導入を夢見る本場の運河の船旅ツアーです。

世話人 相楽 治



堀割ワークショップ

以前、市民の声の会の皆川美智子さんのお宅にお邪魔させて戴いた折に、新潟を訪れた知人の方から、水の都の「水」って何処にあるの？と訊かれて、考えこんでしまったことがあるというお話を、お聞きしたことがあります。海・信濃川・鳥屋野潟など、こんなにすばらしい水辺を抱いた新潟に住んでいるのに、私たちが、なにか、もの足りなさを感じてしまうのは、なぜなのでしょう？それは、子供たちに伝えるべき古き良き新潟が、忘れられようとしているからではないのでしょうか？

私が商売を営む、最近、衰退が進んでいるといわれる古町商店街では、最近、シャッターを閉めたままの空き店舗が、目に付くようになって来ています。

そんな中、国会で、中心市街地活性化法が可決・成立し、まちなか再生の大きなチャンスが巡って来ました。ここで、商店街が、街中の魅力づくりに立ち上がらなければ、巨大ショッピングセンターが笑うばかりの国になってしまいます。

昨年「古町まちづくり研究会」が開始され、憩いの広場に、水辺・堀割をつくる案がでました。

そして、2000年1月 明日の古町を考える会（会長 川上伸一）で、堀割再生ワークショップを開催するため、実行委員会への市民参加を呼びかけることに決定しました。そして、新潟の水辺を考える会の相楽さんにご相談に乗っていただき、これまで、3回の実行委員会が、開かれました。

・第1回「新潟・古町 新しい水辺空間の創造 新潟らしい魅力を求めて。」3.9自由空館・蔵

・第2回「再生の実現へ、あなたの堀割のイメージを下さい。」4.11大和新潟店ホール

・『種まき隊』情報収集及びPRイベント「ほりおこせ！」5.13~14古町どんどん会場

・第3回「目標は、文化か？それとも堀割か？」5.25大和新潟店ホール第4回実行委は、6/22に、会場を御厚意によりご提供いただいた、大和デパート8階Aホールで、午後7時から開催予定です。まだ今は、次回実行委で、ご参加の皆様と会で何が出来るのかを話し合おうという段階です。ご興味お有りの方のご参加お待ち申し上げます。模造紙一枚から商店街有志の方よりご援助いただいている状態ですが、古町の道路の上に、実物大のモデルをつくらう！というインパクトのある発表会の実現も視野に入れつつ、ご参加の皆様と、新潟ワークショップ研究会の山賀さん、市嶋さん、新潟大学の先生と学生の皆様、市役所の方々など、数多くの皆様のお力をさらに広げ、市民の方々とワークショップを通して、夢を広げて行きたいとおもいます。

連絡先：古町商店街振興組合 025-223-0153
(仮称)堀割再生物語プロジェクト実行委員会

堀川 雅弘

市民大学と地域学

「水辺の会へのお願いごと」

新潟市では市政への理解と提言を求める目的で、毎年100人の方を市政モニターとして公募しています。モニター制度10年目の今年は、初めて男性の応募が過半数を超えました。それはテーマの「水、水辺を活かすまちづくり」が良かったせい。単にそれだけではないとも思えます。「テーマについて関心のあること」の欄も、行政に対する注文が多かった今までのものから、「これからのまちづくりは自分たちがやる」という市民の関心の高さや熱意が感じられます。

「水と水辺」をテーマに据えて、通船川や佐潟をグラウンドに市民自らがネットワークを組み、「花筏」「佐潟のハス採り」など主体的に活動している「新潟の水辺を考える会」に今回のテーマについて、進行の応援をお願いしました。佐潟や通船川の案内役として、またワークショップ技法を用いてモニターの皆さんの意見を聴き、それを水辺の会の活動にも反映してもらうことも考えています。

果たして、双方満足できるものが提案できるものか、テーマについてどこまで広げられ、深めることができるのか。このテーマを選択した責任も(4月で異動になった)感じているところです。

お世話になりますが、よろしく願います。

高橋 照子

「市民活動と公民館のより良いパートナーシップを目指して」

西地区公民館では、赤塚地域を学習の素材として、「あかつか地域学」に取り組んでいます。

地域額とは地域を知り、地域を見直し、まちづくりを進める学習です。この講座の企画・ワークショップなどの運営に「新潟の水辺を考える会」に手助けをしていただいています。なぜなら、水辺の会は佐潟の研究、佐潟懇話会、ハス採り、クリーン活動への参加などの活動の実績、人と人のネットワークなど素晴らしい財産がたくさんあるからです。佐潟の水量の100万倍(あふれるほど?)感謝しております。

赤塚と佐潟は密接に関わってきた歴史があり、またラムサール条約の指定を受けたことで、世界の佐潟という立場で注目を集めています。だから、佐潟について様々な意見があります。

あかつか地域学は佐潟を中心テーマに、佐潟って赤塚にとってどんなものか、皆で考えよう、学習を通して考えよう。最終的に色々な立場の意見の中から、共通認識を見出そうというものです。今後ともご協力をお願いいたします。

緒形 直美

学校ビオトープづくり

昨年、豊栄市の太田小学校で学校ビオトープを作るお手伝いをさせていただきました。

「学校ビオトープ」とは野生の植物や動物「すみか」を作ることで、これを子供たち、先生、親、地域の人たちで協力して作ってゆき、様々な学校の授業や地域の活動に利用しようということです。これによって子供たちに生き物たちに触れる機会を作りたいのですが、作るときはみんなで土木作業を行います。その後で食べるお昼は格別な味です。子供も大人も一緒になって汗をかくという本源的な活動は、人間という生き物にとって必要不可欠なものではないでしょうか。そのような大人の姿を子供たちに見せることが大事なのです。そこで新しいコミュニケーションの機会が生まれ、それによって学校や地域が活性化していきます。これらが認められ去年はソニー教育賞をいただきました。また学校でも子供たちが外へでて遊ぶ機会が非常に増えて、生き物と遊ぶ姿をよくみかけるようになりました。また、地域の人も父兄も良く学校を訪れるようになったとのことでした。



写真 豊栄市太田小学校

今年度、私たちは「新潟県学校ビオトープ連絡協議会」という組織を立ち上げ新潟県下に「学校ビオトープ」を作っていこうと思います。新潟市でも沼垂小学校で現在「学校ビオトープ」を造成中です。興味のある方は是非ご連絡ください。自分の近くの学校や母校の中にみんなが集まれる「心のビオトープ」を作っていきますか。

世話人 五十嵐 實

第8回水環境全国交流新潟大会

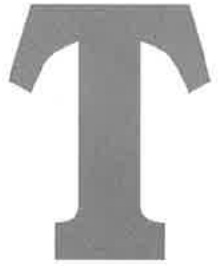
本年10月14日(土)、15日(日)に新潟で第8回水環境全国交流大会を開催することになりました。信濃川右岸に面するユニゾンプラザと信濃川ウォーターシャトルの水上バスを会場に、官民が対等な立場で多様で多彩な水辺環境のあり方を探ります。

1993年、日本一のドブ川綾瀬川の上流草加市で水環境全国交流第1回大会は幕を開け、各地の大会に引き継がれさまざまな取り組みを研究討論しています。この間1997年の河川法改正で治水、利水に環境が加わり、川づくりへの地域住民の関わりが重視されるなど劇的な変化が起きています。といっても、市民が水辺の環境を意識するのは、水害の時や水辺でのやすらぐ時など限られているため現実の関わりは受け身そのもので、環境の意味、水と一体の暮らしの素晴らしさの理解はまだまだです。

新潟大会のテーマは調整中ですが、全国的な4つのテーマ(1.河川管理と官民パートナーシップ連携、2.NPOによるリバー(マスター)スクールの開設、3.水辺のNPO法人化とその課題/税、事業、人財、4.吉野川第十堰問題とNPOの役割について)と新潟から発信したい3つのテーマ(1.川の生かす舟運-通船川に外輪船復活?2.小流域コミュニティ循環/エコマネーについて、3.激特水害対策事業を利用した美しい川づくり)について議論を深める予定です。

河川管理審議会委員の通船川視察-つうくり市民会議での通船川マスタープランづくり-新潟の掘割復活検討ワークショップ-東京ネスバスでの新潟の水環境発信-信濃川下流でのEポート大会-全国自治体学会長岡大会での「21世紀の川と地域の暮らし」パネル参加-オランダツアー-川に学ぶシンボ大阪大会-ドブ川市民サミット七尾と連続した川のイベントを受けて新潟大会では、より現実的なテーマでの水環境の可能性を追及する大きな議論の輪を、多くの市民、行政の参加を期待したい。

世話人 相楽 治



水辺の会メディアに登場

阿賀野川沿川のエリアレポーターが月替わりで川にちなんだ話題をレポートするラジオ番組「阿賀野トレジャーハンティング」はご存知でしょうか。



星島さんの収録の様子 (FM新津にて) 撮影：相楽 治

放送時間は Radio Chat FM新津 (76.1MHz) 毎週金曜朝8:05から、FMけんとう (76.5MHz) 毎週木曜朝8:30からで、建設省阿賀野川工事事務所の提供で放送されています。

これまで、2月：杉山 泰彦、3月：旗野 秀人さん、5月：中村 吉則さん、6月：星島 卓美さんが水辺の会の会員もレポーターとして登場しています。



座談会取材する入松田さん (右)

また、6月24日から25日、水の文化情報誌「FRONT (財団法人リバーフロント整備センター)」の編集部が入松田さんとカメラマンの坂本さんが、新潟の舟運や水辺を活かしたまちづくりの取材に来港しました。取材は、通船川や、信濃川ウォーターシャトル、通船川草刈隊などを中心に、数名の世話人による座談会でインタビューが行われました。

発行の予定は9月とのことです。お楽しみに。

杉山 泰彦

水辺の会関連イベント情報 (1)

◆2000.7.12(水)

夢～万代島まちづくり

18:00～20:00

NEXT21 新潟市民プラザ

平山征夫、平野繁臣、豊口協

無料

新潟観光コンベンション協会 025-265-8000

◆2000.7.13(木),14(金)

新潟市民モニター「通船川現地視察」

◆2000.7.18(火)

通船川マスタープランづくり

18:30～

新潟市東地区公民館

新潟の水辺を考える会 相楽、森本

TEL 025-263-2727

◆2000.7.22(土)

つくり市民会議

通船川マスタープラン素案について

会場 新潟市万代市民会館

◆2000.7.23(日)

通船川水質環境調査

09:00～12:00

問い合わせ・申し込み：東地区公民館

TEL 025-241-4119

◆2000.7.29(土)

2000夢海岸フェスティバル

11:00～17:00

新潟市西海岸 (日和浜)

NAMARA、潮干狩り、フリーマーケット、

シーサイドクルーズ

無料

問い合わせ：新潟市・港湾空港課

TEL 025-228-1000 内2856

◆2000.8.4(金)

橋の日コンテスト

ピーターフランクル講演会

15:00～16:30

新潟市芸術文化会館・劇場

無料・申込必要 (締切7.21)

問い合わせ・申し込み：「ほくりく橋の日」

実行委員会 TEL 025-381-1160

水辺の会関連イベント情報 (2)

◆2000.8.6 (日)
通船川親子釣り大会
 09:00～12:00
 問い合わせ・申し込み：東地区公民館
 TEL 025-241-4119

13:00～17:00
 新潟県民会館小ホール
 エコアクション、エコフェスティバル
 無料
 新潟県環境企画課
 問い合わせ：TEL 025-285-5511 内2692

◆2000.9.10(日)
通船川草刈り隊



今年6月25日の様子 (撮影：相楽 治)

◆2000.8.19(土)～20(日)
第13回どんつき祭り
 19日 花火大会
 19:45～20:30 新潟市青山海岸
 20日 どんつき村
 11:00～16:00 新潟市寺尾中央公園
 どんつき祭実行委員会 TEL 025-260-1203

◆2000.8.20(日)
信濃川フェスタEポート大会
 参加 相楽世話人

◆2000.8.24(木),25(金)
自治体学会；長岡
 大熊・相楽パネリスト参加
 川とまちづくり分科会

◆2000.8.26(土)～31(木)
オランダ-イギリス旅行
 新潟-九州の水辺の会主体のツアー

◆2000.9.2(土)
通船川クリーンアップ大作戦
 通船川ネットワーク

◆2000.9.30 (土)
つくり市民会議
 通船川マスタープラン案について

◆2000.10.7(土)
第4回新潟県環境NGO大会

◆2000.10.1(日)
佐潟ハス採り大会



13:00～15:30
 新潟市赤塚・水鳥湿地センター前集合
 ハス採り、テンプラ試食会
 無料
 新潟の水辺を考える会 相楽、森本
 TEL 025-263-2727

◆2000.10.14(土)～15(日)
第8回水環境全国交流会イン新潟
 新潟ユニゾンプラザ、信濃川ウォーターシャトル

新潟の水辺を考える会 相楽、森本
 TEL 025-263-2727

◆2000.11.10(金)～12(日)
第16回水郷水都全国会議・東京大会
 ～創ろう活かそう！私たちの川とまち～
 10日 船上懇親会
 11日 見学会、全体会、交流会
 12日 分科会、全体会
 すみだりバーサイドホール、江戸東京博物館、
 東京都立産業会館
 有料
 水郷水都全国会議・東京大会実行委員会
 問い合わせ：TEL 03-3841-0677 藤原

水辺の会関連イベント情報 (3)

◆2000.11.17(金)～19(日)
 第13回森と自然を守る全国集会in村上
 ～山よ川よ、むらよよみがえれ～
 17日13:30～全体集会、全国交流会
 18日08:30～分科会
 19日現地視察
 有料
 実行委員会 TEL 0254-52-2922

◆2000.11.25(土)
 水辺シンポジウム2000
 ～NPO水辺の会設立から市民事業へ向けて～
 会場 新潟市万代市民会館

会員紹介



藤井 不二夫

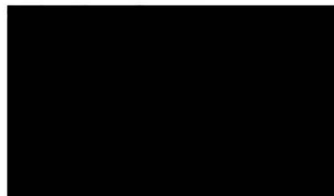


<東京の川あるき>をやっています。といっても現存の大河川とちがいます。江戸時代から戦後に至る東京23区内に流れていた内河川の跡を辿り歩いての探索です。何気なく歩いている街の道路が昔は川だったよ>という、たいていくウッソー!>とい

います。
 例えば新潟市の場合、西堀、東堀を始め栗の木川には及ばずゴマンと市内に掘割があったのです。昭和39年の国体開催を機に全て埋め立てられてしまいました。望郷の念で一度探索してみたいのです。新潟の<帰らざる川>を。<他門川回想の旅>がその一例です。これが結構ハマります。



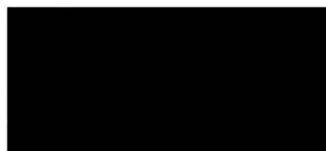
菅野 隆之



現在は、大熊教授の下で河川の研究をしており、昨年から水辺を考える会の皆さんにはお世話になっています。やはり、水辺というと山形出身のためか、川原での芋煮会が思い出されます。近年なかなか行く機会がなく残念に思っています。今後ともよろしくお願いします。



大倉 宏



聖籠町の二宮邸の庭から池(というより湖)を眺める機会が先日あり、その美しさにおどろきました。水は地上で最も美しい物質だと思います。その美しさを開く限定された場(例えば上記の庭のような)ということについて、少し考えてみたい気分です。

ホームページ紹介

全国水環境交流会
 〒500-8501 富山県富山市
 TEL 076-234-7325 FAX 076-234-7327
 URL http://www.jrec.co.jp/npo/mizukan/index.htm

◇全国水環境交流会
<http://www.jrec.co.jp/npo/mizukan/index.htm>

水辺日記
 〒900-0001 新潟県新潟市東区
 TEL 025-272-1111 FAX 025-272-1112
 URL http://www08.u-page.so-net.ne.jp/ba2/kiyoshi/index.htm

◇水辺日記
<http://www08.u-page.so-net.ne.jp/ba2/kiyoshi/index.htm>

川の日ワークショップ
 〒900-0001 新潟県新潟市東区
 TEL 025-272-1111 FAX 025-272-1112
 URL http://homepage2.nifty.com/icas/kawanohi/index.htm

◇川の日ワークショップ
<http://homepage2.nifty.com/icas/kawanohi/index.htm>

入会案内

この会は、遊び心半分・真面目心半分で活動しています。ウォッチングには、家族ぐるみで子供達も一緒に参加したりしています。自分の足で水辺を歩くなりして、自分でも感じたことから、自分の水辺を発見していく、あるいは考えていくことを大切にしています。今までとは違った視点から、あらためて自分の身の回りに目を向けて見ると、同じものを見ているのに今までとは違うものに見えてきます。新しい発見があります。自分の世界もまた少し広がってきます。この会も色々な分野の人達が集まって、それぞれの世界がもっと広がっていくような出会いの場を提供できる会にしたいと考えています。あなたの参加お待ちしております。

■設立年: 1987年10月1日 ■目的: 水辺に関わる自然、歴史、文化、生活、風俗、スポーツ、レクリエーション並びに科学技術を探り、これからの水辺の望ましい姿を考え、地域の生活向上に寄与することを目的とする。 ■代表者: 会長 大熊 孝(新潟大学工学部教授) ■会員数: 個人244名・法人16団体(2000年7月現在) ■活動: 水辺シンポジウムの開催/水辺ウォッチング/会報「新潟の水辺だより」の発行/水辺環境整備に関する学習会/長野県富山県の水辺グループとの交流会/通船川、佐潟の調査・研究etc. ■年会費: 個人会員2,000円賛助会員(法人など)10,000円

入会申込書

フリガナ氏名		男・女
特技や水辺への想い		歳
住所	〒 () -	メールアドレス
職業		
勤務先	〒 () -	

注)紙面の都合上、縮小しています。250%程度拡大コピーをしてご使用下さい。

Water Shuttle
 水の都

◇信濃川ウォーターシャトル(株) <http://www.pavc.ne.jp/sws/>

編集後記

2000年6月25日通船川松崎地区左岸の草刈を行った。隊長は横山通さんである。参加者は昨年秋に比べ倍にも膨れ上がった。大熊会長以下12名と雑誌「FRONT」の取材でこられた入松田さんとカメラの坂本さんのみなさんである。暑い日曜日の午前中草刈機をはじめ持った人もいて、作業はのんびりで行った。私は前日番小屋でおこなった前夜祭のせいもあり、寝ぼけ眼の参加のため、うっかり半そでで作業を行ってしまった。両腕に引っかき傷と日焼けの跡を作ってしまった。現地で行ったバーベキューは、横山さんの奥さんのおにぎり提供の奮闘もあり、格別の味がした。横山さんの植えた木を刈り取ってしまったのは大熊会長と編集鳥であった。

編集鳥 高橋 正良

- 事務局: 株式会社グリーンシグマ内 (e-mail:sagara@g-sigma.co.jp) 〒950-2111 新潟市大学南1丁目7821-5 Phone 025-263-2727 Fax 025-263-1134 (電話番号が変わりました)
- 編集局: 株式会社サザンウインド内 (e-mail:masayosi@on.rim.or.jp) 〒951-8165 新潟市関屋金山町石碓マンションロビン1階 Phone 025-234-7325 Fax 025-234-7327
- URL: <http://www.on.rim.or.jp/~sugiyama/mizube.html>